

# 沿線住民諸君も 遂に嘗められた

最少限度の生活に對する吾人等の嘆願は見事一蹴されたのであります。此處に於て諸君等の善良なる運輸、従事員は社會人道の爲安寧と幸福を思ひ無理解なる會社當局に對し奔然として抗爭する事になりました。

## 會見眞夏の晝の夢

場所 本社樓上事務所  
日時 八月十二日午後一時  
人物 A、五島專務  
B、實行委員代表

電車の音がけた、ましく響き風がそよもしない、暑さの眞盛り、の樓上、眞下に見える街頭には回答を待つ數拾名の會員と各郊外の應援隊とが握り飯を食ひつゝ待つて居る

B、會社側の御意嚮を承りに上りました【恭々しく頭を下げ、イト温順の態度である】

A、經濟状態が苦しいから君等は食はずに働け

B、嘆願書の方はそう致しますと【哀願的な口調になる】

A、建設事業多忙中であるから、そんなものを見て居る暇はない

B、成可く回答をお願ひ致したいもので  
A、時日を約して争議の形式を取るならそれでよし電車を止めるなら止めろ三日位止めた方が徹底していゝだろう、その代り貴様達の首は一人残らず誠にしやる【口邊に冷笑を浮べる】

B、が私達は徒に争議を起すものではありません只生活を食べる丈にして戴きたいのです【眞劍の氣漂ふ】

A、馬鹿な事を云へ此會社の様な納涼電車に乘務してゐながら給料を貰ふなどは贅澤な事である

B、會社の御統計に依りますと平均月收七拾七圓なれど事實六拾圓位取る人は數名しかありません、何かの御間違ひじやないでせうか？

A、生意氣な事を云ふな、それで喰へなければ辭職して氷屋でもやれ、氷屋なら拾圓もあれば出来る、氷屋をやれ、俺でも土方をやれや三圓や四圓位取る事譯ない事じや【顔を窓外に向け椅子の上をフン反り返る】

B、貴方は住民諸君の事はお考へになりませんか？  
A、沿線住民の足を奪ふ事はすこしも痛痒も感じとらん、時にはやつて見る方が返つていゝだろう批判なんかとは以ての外だ、俺は今に小山まで七錢にしたいと思つて居た【顔付益々險惡になる】

【用心棒専務の側にダニの如くにくつゝ、支配人庶務課長、青課長、馬課長各々憂愁の色現はる、此のあたり用心棒コックと歩き廻はる、小刻みの赤靴の音タイピストのタイプライターを打つ肉の響き交換嬢の可憐な聲す、此の時階下の本社裏門前に白米三十俵高く積まる會員一聲に氣勢を上ぐ】時折怒號す

B、然らば絶対に我々の嘆願は容れられない譯ですな、已を得なければ争議に形式を變へて要求するかも知れませんが争議調停も出来て居る事は御承知と思ひます【皆々コウ奮の色を表す】

A、何が何だ!!!【椅子から立ち上り机を強く打つ】馬鹿野郎争議調停があつたつてそれが何の役に立つか社會局の奴等に録な事一つ出来るか【怒氣溢れ眼は血走つてくる】

B、そう申しますと貴方は國家の機關を無視してお出になる譯ですな【最早堪えきれぬように皆立上る】  
子供等支部旗を振立て、自治會萬歳を叫ぶ階上、階下窓より腰辨諸君顔を覗

A、國家機關とは何ぞや大體考へて見ろイ郡長や町長警察の奴等は調停に這入るけれども只金を貪りに來る計りじや、しかも警察署長あたりが今迄でやつて來た事を見給へ全部が炊出とか何とか名前を附けて金を取つてるじやないか